

団結が水を呼んだ

——飽託郡託麻村ルポ——

生活と水、それは人体と空気ほどにも切りはなせないものである。水の不自由は、日常の炊事に、清潔に、大きな努力を求めながらもしかも絶えず欠陥を生む。夏の流行病などはその尤（ゆう）なるものだ。

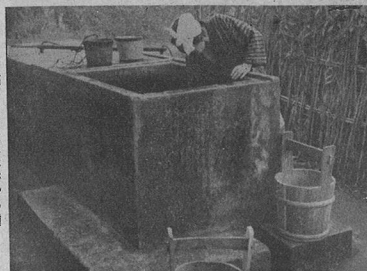
簡易水道は、この悩みを解消する最良の手段として、戦後年とともにクロースアップされて来た。

あなたの町や村にも、こゝに倣うような悩みはないであろうか。

直後に五十名の赤痢患者を出すなど惨劇たる状態であった。かくて簡易水道の布設は地元多年の希望であったが、偶々二



十八年の水害を契機として県行政と繋がり、水害対策簡易水道布設事業として発足した。そして普通の簡易水道と違うところは、水源を遠く阿蘇の立野に求められていることである。阿蘇立野のピクニ谷に清潔な湧水がある。保健所の水質検査でも、熊本市の八景水谷水源の水に優るとも劣らない水質で一日の湧水量がナント三万トンというのである。



毎日の水汲みが苦勞の種

から、十八万人位の都市でも充分なかなる位の豊富な水量である。そこで当時の大津町、陣内村、瀬田村白水村、原水村、龍田村、供合村の七カ町村が共同で貯水槽を設けて、配管をはじめた。

先祖代々、水に不自由をし続けてきた村民たちは、進んで貯金をはじめ、労力を提供し、その期待は大変なもので、この村民の熱意と村同士の積極的な活動がこの水道を完成したとも云えよう。

工事ははじめて二年後には給水戸数一四七戸給水人口八〇八

名を完成し現在迄に三八〇戸、約二、〇〇〇人に給水している。今は昔の物語りながら、部落の老人たちは水汲みの苦勞話を「毎日日々雨降らうと雪が舞おうと水汲みだけ水汲みだけ一日も欠かさない。毎朝二時間位は水汲みに費され畑仕事を終つてから汚れを洗う風呂も一日おきに汲み替える位で、水を汲みに行く労力を思ふに、もう風呂に入る元氣もなく、汚れたまき、糞た事もあった」と話して呉れた。

今となつては笑ひ話であるが、毎日の水汲みの労力が、嫁と姑との不仲の原因になつたり、若い主婦が、子供のきたない汚れたね願しか見なかつたという話もある。又、共同炊事をやる時など二人は一日中水汲みにかゝつていなければならなかつた。

何と云つてもこの水道の完成を一番喜ぶ写真「右ページは電ケ岳村の昔」

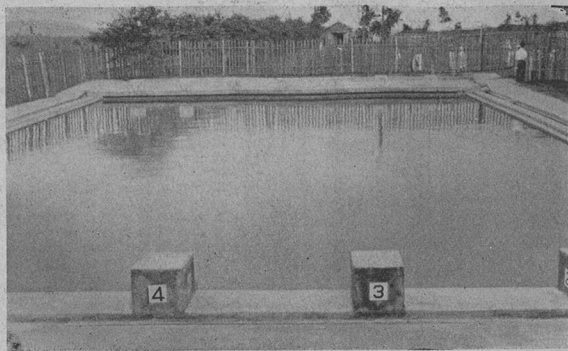
簡易水道

熊本市の現に隣接する託麻村、こゝは水田が僅かに六十町歩しかない代表的な畑作地帯で、井戸を掘つても水が出ない。特に供合地区では昔から水に不自由をしていたが、今では立派な水道がひびいて、以前の水に苦しんだ事など夢物語りになつてゐる。昭和二十八年の大水害によつて、部落民が飲料水風呂水洗濯や野菜洗い等に使つていた井手が流れなくなり、おまけに水害

海水で米を洗つたり



体検査でトラホームにかかつている子供が大変多かつたが、今では殆んどなくなつたし、毎年六月になるのを待つていたように発生してゐた赤痢が三十年から一人も出なくなり、野菜をきれいな水で完全に洗えるようになったので、寄生虫も年々減少してきたと喜んでゐる。



今ではりつばなプールまで

さて、台所に使い放題月額金百八十円也で清潔な水が出るとなると、主婦達は早速、台所の改善に手をあげ始めた。窓を広くあけたりの流しに改良かまどや風呂場、中に電気洗タタ機がゼンと坐つてゐる。生活改善は先ずは水道からといふ

電ケ岳でも

鳥及び広畑地区の布設を計画してゐる。両地区共、何れ方らず水に不自由しているところ、各戸毎に早速水道貯金をはじめ、もう相当な額に達し、水道の引

丸となつて奮起、今では炊事、清潔、衛生などの面はもとより、附近を通る船への給水も自由、余勢をかつて今年から港湾改修（四カ年計画五千万円）に着手した。



蛇口ぞひねればきれいなきれいな水が.....

☆ あるおばあさんは、長い間の苦勞をかえりみてしみじみこの水道がうれしかつたと見え、思わずこゝろ叫んだ「何しろおアノ壁かゝる水の出ますもんア」

☆

んだのは家庭の主婦と、村の保健婦さん。主婦は子供の起きてゐる内に仕事を終り、勉強も見てやるようになり、新聞や雑誌をよむ時間的なゆゑも出て来た。

また、現在熊本市内の小中学校ではプールの水道代に頭を痛めているといふのこゝの学校のプールは、しよつと水とりかえていつもきれいにしてゐるがお金は一円もかゝらない。

現在三十二年度、三十三年度に小山戸